

老健施設における 衛生管理者として

西田聖幸 [にしだ・せいこう]

介護老人保健施設いるかの家リハビリテーションセンター（岡山県）
医師、施設長



はじめに

何十年にもわたって老健施設（介護）の仕事に携わっているのに、その仕事の目的を明確に表現できないことに驚き茫然としています。

「ばあさまとぢいさま 寝ればねたつきり」（江戸時代の古川柳）。

そんなときにこの川柳に出会い、天にも昇る気持ちを味わいました。その境地こそ介護従事者が天に捧げる栄光の頌歌しょうかだと思います。

常日頃から介護業務（老健施設の仕事）と医療業務（病院の仕事）の仕事内容の違いや、その目標の違いを真剣に考えています。介護の仕事は極楽浄土や神の御国に導く、難解な季語など不要で、滑稽を旨とし川柳的です。それに反して医療の仕事は、まだ行かせない、まだ健康な生を味わわせたい、厳格に季語を守る俳句的と言えなくもありません。例えば、「旅に病んで夢は枯野をかけめぐる」という俳聖の句に示されます。しかし、そうは言っても両仕事の間では抜き差しならぬ葛藤にも、ときに遭遇します。

その最たるものは、老健施設から手ぶらで他病院に転院したらしばらくして大量の薬を処方されて当施設に戻ってくることです。さらには、入院中は元気だった人気者が老健施設に戻ってから長い入院を契機とした正真正銘の認知症になってしまったなどということがあります。しかし、私は長い間老健施設と病院の両方で働いた経験をもっています。この種の問題はいずれ解決すると考えています。

施設紹介

当施設の母体である福嶋医院は220年余の歴史を

もち、「皆に優しく共に楽しく」は、施設に関係するすべての人に福嶋啓祐理事長が唱えた基本理念で、日々の生活のすべてにおいて我々を励ましています。

いるかの家リハビリテーションセンターは、岡山県の南西部に位置した浅口市寄島町に所在しており、定員は入所従来型50名・ユニット型30名、通所リハビリ50名の老健施設です。多職種連携で積極的に在宅復帰・在宅療養支援に取り組み、超強化型を継続しております。昨年10月、生産性向上を目的にICTの導入を行い、今年8月より生産性向上推進体制加算1の算定を開始しました。

業務について

医師として、利用者の健康管理や健康指導、在宅復帰に向けたアドバイスを行い、施設長として、老健施設で働く職員の人材管理に携わり、介護職員やリハビリ専門職などさまざまな職種を把握し連携しながら、利用者の健康と生活の質を向上させる体制を築いています。チーム全体が協力し合いながら利用者の生活の質を向上させ、在宅復帰をサポートしています。

衛生管理者としては、健康に異常がある職員の発見および処置、作業環境の衛生上の調査、作業条件・施設等の衛生上の改善、労働衛生保護具・救急用具等の点検および整備、衛生教育・健康相談、職員の負傷および疾病・それによる死亡・欠勤および移動に関する統計の作成、その他衛生日誌の記載等職務上の記録の整備等のほか、週1回以上の事業所の巡視を行っており、特定の部署・役職・年代・雇用形態に限定せず、幅広い層の職員に対応しながら労働環境を整えていくよう取り組んでいます。